第 9 回スナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ全国大会 レポート

■第 9 回スナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ全国大会

〈11 月 5 日・土曜日　14:30-16:30　宍戸ヒルズカントリークラブ〉

東日本大震災の影響で、延期されていた全国大会を、約 5 ヶ月遅れで開催。12 地区 56 校が挑戦した各地区の予選を勝ち抜いた、精鋭 20 校の小学校により競われた。選手を含む遠征者数は 600 人を超えた。また、トーナメントの最前線で活躍するプロ 6 人が、ドリームチームを編成して参戦し、盛大な大会となった。

宮本勝昌プロ

横田真一プロ

小山内護プロ

増田伸洋プロ

武藤俊憲プロ

薗田峻輔プロ

続々と会場に集まる選手たち。受付では一礼をして入場。

ウォーミングアップをして、感触を確かめるように練習。

コースレイアウトを確認したり、ゼッケンを取り付けたりと、事前の準備を行った。

ルール説明を受けるドリームチームメンバーたち。

Dream JGTO Team

音楽に合わせて入場行進。JGTO ドリームチームは「ロッキーのテーマ」で入場。

開会式では黙とうが行われ、那覇市立壺屋小学校キャプテンの嘉数芽香さんの選手宣誓で開幕。

昼食はハウス食品から提供の、ククレカレーと C1000 レモンウォーターを、芝生の上で頂きました。

サインに応じる JGTO ドリームチームメンバーたち。レポーターで協力の東尾理子プロもファンサービス。
スタート前に練習に余念が無い JGTO ドリームチームメンバー。

プロが選手名をコールしてティオフしていく選手たちを見送りました。

自己紹介と握手をし、コースに向かって一礼をしてスタート。

秋晴れの11月５日、茨城県にある宍戸ヒルズカントリークラブにて、全国の予選を勝ち抜いた20校が集まり「第9回スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会」が開催された。

もともと6月に開催を予定されていたこの大会は、東日本大震災の影響のため延期となり、今年の開催が危ぶまれていたが、スナッグゴルフを頑張っている子供たちに全国大会を開催したい、そして何よりもこの大会を通して子供たちに夢を与えたいという関係者みなさんの意気込みと努力により、第9回大会開催へとこぎ着けた。

そして今回はプロゴルファーからも「スナッグゴルフを頑張っている子供たちを応援したい、何か自分達にもできる事はないか」と、選手会長の宮本勝昌を筆頭に、小山内護、横田真一、増田伸洋、武藤俊憲、薗田峻輔の6名がドリームチームを結成し、子供たちと一緒にプレーをしながらこの全国大会へ参戦するという子供たちにとって夢のような大会となった。

そしてドリームチームも参戦した記念すべき第9回大会で見事優勝に輝いたのは東広島市立三ツ城小学校。チームの合計スコアは122ストロークと、2位のチームに3打差をつける圧倒的な強さで栄冠を勝ち取った。特に兼信海大（かねのぶ　みひろ）君は、青コースの3番でホールインワンを達成、合計24ストロークで青コースのベストスコアをマーク。

キャプテンの安東稔覚（あんどう・としあき）君も赤コースで合計23ストロークと、ベストスコアまで1打及ばなかったが、すばらしいスコアでチームの勝利に貢献した。

今回の勝因は「チームワークが良かった」と言うキャプテン安東君。「監督やコーチ、そしてお父さん、お母さんと多くの人に支えられて優勝ができたと思う。チームみんなで勝ち取った優勝。みんなとゴルフができて楽しかったです」とチームを代表して挨拶をした。

久保岡監督は「この大会で優勝をする事を信じて生徒たちは練習に励んできました。お陰で普段の力を発揮できたと思います。そして今回、この全国大会を開催して頂いた関係者ならびに主催者のみな様に深く感謝申し上げます。来年、連覇を狙って出場します」と力強く豊富を語った。

そして記念すべき初参戦のドリームチームの合計スコアは117ストローク。ドリームチームの中では宮本と武藤が22ストロークと最高のスコアをマークした。

初めてプロとラウンドした子供たちの感想は、声を揃えて「かっこよかったです、なんであんなにボールが飛ぶのか不思議、もっと練習をしてあんなふうになりたいです」と、憧れの眼差しでプロを見つめていた。

しかしプロ6人も声を揃えて「みんなとても上手でびっくり！スイングの基礎ができている子がたくさんいた、これからがとても楽しみ」と子供たちを絶賛。「ゴルフを通してルールやマナーを学び、これをきっかけにプロゴルファーを目指して、将来みんなと一緒にトーナメントで戦えたら嬉しいな」と宮本は子供たちに激励を送った。年々子供たちのレベルが上がって行くスナッグゴルフ全国大会。来年の記念すべき第10回大会も白熱した試合で盛り上がる事は間違いないだろう。

「スナッグゴルフの全国大会でプロ選手のドリームチームを結成して一緒にプレーができたら子供たちは喜ぶのでは？」。今回の「第9回スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会」にドリームチームが結成されたきっかけは薗田峻輔のこの一言だった。

毎年、子供たちにゴルフを始めるきっかけ作りを目的にスナッグゴルフ用具一式を小学校に寄贈している事から、「ゴルフ伝道師」としてプロゴルファーたちがトーナメントの合間を縫って寄贈先の小学校を訪問している。

今年の6月に「ゴルフ伝道師」として初めて大阪府の箕面市立東小学校を訪問した薗田は、思っていた以上に自分の訪問を子供たちに喜んでもらい、大感激。早速、スナッグゴルフ関係者や選手会長の宮本勝昌に相談を持ち掛け、「子供たちが喜んでくれるのならば」と小山内護、横田真一、増田伸洋、武藤俊憲も宮本と薗田の思いに共感、今回のプロ6人によるドリームチームの結成に至った。

開会式で子供達と対面したドリームチームメンバーは「みんなには負けません！」と声を揃えて宣言したものの、スタート前に練習してみると意外に難しい。「大丈夫かな・・・？」と苦笑いを浮かべ、各自スタートホールへ向ったが、いざ、試合となるとさすがプロ。緊張気味の子供たちに声を掛け、楽しみながらも6人の合計ストロークは117と子供たちのスコアをより大きく上回った。

22ストロークでベストスコアをマークした宮本は「みんな思っていた以上にゴルフになっていてびっくりしました。でも自分も最高のゴルフができて良かったです」と笑顔でコメント。
同じく22ストロークの武藤は「最初はどうなるかと思い、大人げなくむきになりました」と苦笑い。「みんなとゴルフができてとても楽しかったです」と満足げに語った。

日没が迫る中、投光器が準備され、ホールアウトしてくる選手たちの集計作業が行われた。

■トークショー

23ストロークだった横田は、友部小学校4年生の神白恭平君が22ストロークをマークした事に驚き、「プロは実力の世界なので、これからは恭平君を師匠と呼びます」と言って会場を笑わせた。

ツアー界屈指の飛ばし屋の小山内は25ストローク。「意外と難しかった。みんなスイングがしっかりしていてびっくりしました。次回は必ず22を出します」と笑顔で答えた。

同じく25ストロークだった薗田は、「今回のドリームチーム結成の発起人の1人として、みんなとプレーができて楽しかった、喜んでくれて嬉しかった。また来年も一緒にプレーしましょう」と子供たちにエールを送った。

26ストロークだった増田は「スコアが一番悪くて悔しいです。来年に向けてスナッグゴルフセットを買って練習します」と言って会場を笑わせた。

最後に子供たちからお礼の言葉と大きな拍手をもらい、ドリームチーム6人も感激。子供たちが今回の大会を思い出に、また一生懸命ゴルフに励み、夢や目標を抱いてくれたら、今回のドリームチーム結成は大成功。

また来年も子供たちのためにドリームチームは結成され、スナッグゴルフ全国大会へ参戦するだろう。

■手話講習と歌のプレゼント

大会が終わった夜は、茨城県教育研修センターで、地方から集まった小学校などが宿泊し、夕飯を共にし、手話通訳士で歌手の miify(みっふぃ)さんによる、手話の基礎講習と歌のプレゼントが行われ、盛りだくさんのイベントを子どもたちは満喫した。

■表彰式

優勝した広島県東広島市立三ツ城小学校チーム。

2 位の笠間市立友部小学校チームと、3 位の笠間市立北川根小学校チーム。

ベストスコア賞、ホールインワン賞、アルバトロス賞を受賞した選手たち。

児童を代表して、笠間市立岩間第三小学校キャプテンの中村卓くんからお礼の挨拶がされ閉幕した。

■笠間市体験学習

〈11 月 6 日・日曜日　10:00-12:00　笠間工芸の丘〉

大会翌日には、ろくろうや、オカリナ絵付けなど、地元笠間市の陶芸を体験。

■笠間市が大会運営をバックアップ

地元の、笠間市アマチュアゴルフ協会、笠間市スポーツ推進委員協議会、笠間市教育委員会のボランティアスタッフの方々が、運営物品の提供、設営、大会運営、スコアラー業務、撤収など、全面的に大会をバックアップ。

■テレビ放映

●ザ・ゴルフ・チャンネル（CS・ケーブル）

12 月 17 日（土）13:30 – 14:30　12 月 18 日（日）6:30 – 7:30　12 月 21 日（水）19:00 – 20:00

●キッズステーション「ホビッチョ！」

12 月下旬から 1 月上旬(予定)

■製作物等のご報告

タイトル看板及びスポンサー看板

スコアボード及びスポンサー一覧

ゼッケン、ホールナンバー

レポート: 社団法人日本ゴルフツアー機構 宮内勝